

腎臓内科

研修の目標

総合内科医としての基本的な診療能力を修得する。腎疾患診療を基盤とし、全身的な病態を機序に基づいて理解・対処できる能力を身につける。腎疾患の基本的検査や診断、治療について経験するだけでなく内科一般の検査や診断、処置や治療も修得する。

基本的学習内容

1. 患者や家族とのコミュニケーションや応接、説明の仕方
2. 身体所見の取り方や解釈
3. 基本的検査手技（採血、血ガス、検尿など）
4. 検査計画の立て方と指示
5. 診療録記載と診療文書作成
6. 検査結果の解釈と診断
7. 治療計画と検査の組み合わせ方
8. 処方や注射（末梢静脈、皮下注、筋注）などの手技
9. 非侵襲的検査の施行（腹部超音波検査や心電図など）
10. 特殊検査の補助（腎生検）
11. 内シヤント作製術、腹膜透析カテーテル挿入術の助手、局所麻酔や皮膚縫合。
12. 中心静脈カテーテル挿入（透析用カテーテルを含む）と管理

研修期間と内容

内科系研修のなかで1～6ヶ月の研修を選択できる。ただし2ヶ月未満の研修は奨励しない。3ヶ月未満の研修では上記9まで可能、それ以降では症例により12まで可能。ただし他科での研修状況に応じて変わり得る。

対象となる疾患

急性および慢性腎炎、電解質異常、急性および慢性腎不全
二次性腎障害を来す疾患とその原疾患
（膠原病、血管炎、アミロイドーシス、血液疾患、糖尿病など）
腎血管病変の診断、慢性腎不全に合併する疾患の診断と治療
副甲状腺および副腎疾患、高血圧症の診断と治療
血液透析、腹膜透析導入前後の検査と治療
腎炎や腎不全患者の合併症治療（感染症や糖尿病など）

週間スケジュール

曜日	午前	午後
月	病棟業務、透析業務	病棟業務
火	医局会、症例カンファ、回診 病棟業務、透析業務	病棟業務 抄読会、リサーチカンファ
水	病棟業務、透析業務	病棟業務
木	病棟業務、透析業務	病棟業務 透析カンファ
金	病棟業務、透析業務	病棟業務

血液浄化療法：月～土曜日（西病棟6階 血液浄化療法室）

腎生検：西病棟4階処置室

内シヤント造設術：中央診療棟6階手術室

シヤントPTA：中央診療棟5階手術室あるいは地下1階カテーテル室

CAPDカテーテル留置術：中央診療棟6階手術室

CAPD専門外来：内科外来

その他

腎不全患者における水・電解質管理、栄養管理、薬剤使用量の決定は細心の注意を要するものであり、その実際の管理を学ぶことは医療研修の上で非常に役立つものである。

年間の内シャント作製および血液透析導入は年間 50 例前後となっている。腹膜透析導入は年間 5 例前後の導入がある。ほぼ全例を大学病院の腹膜透析専門外来で管理している。血液透析と腹膜透析の併用療法患者も大学病院で対応している。腎生検は、大学では年間 60 例前後で、関連施設の症例を合わせると年間 180～200 例になる。大学の組織カンファレンスではすべての施設の症例の診断を行っている。

日本腎臓学会主催で年 2 回開催する「研修医のための腎臓セミナー」では腎臓内科医を目指す若手はもちろんのこと、将来の専門分野を問わず有用な水・電解質、酸塩基バランスや血液浄化療法、移植など幅広い基本知識の習得が可能である。希望者は指導医とともに参加することも可能である。

研修の評価 研修医が当科研修期間中の自己評価を行った後、指導医が厚生労働省の経験目標、行動目標の達成度評価を行う。

研修実施責任者 向山政志 教授

研修指導責任者 (正) 安達政隆 講師 (副) 栗原孝成 講師

指導医一覧

向山政志 (教授) : 腎臓専門医・透析専門医・総合内科専門医・高血圧専門医・内分泌専門医・医学博士

泉裕一郎 (特任准教授、病棟医長) : 腎臓専門医・透析専門医・総合内科専門医・医学博士

栗原孝成 (講師、医局長) : 腎臓専門医・透析専門医・総合内科専門医・医学博士

安達政隆 (講師) : 腎臓専門医・透析専門医・総合内科専門医・高血圧専門医・医学博士

柿添豊 (助教、外来医長) : 腎臓専門医・透析専門医・総合内科専門医・高血圧専門医・医学博士

早田学 (助教) : 腎臓専門医・透析専門医・総合内科専門医・集中治療専門医・医学博士

水本輝彦 (助教、副病棟医長) : 腎臓専門医・透析専門医・総合内科専門医・医学博士

中川輝政 (特任助教) : 腎臓専門医・透析専門医・総合内科専門医・医学博士